

選定理由

鈴木会員は昭和30年以降、千葉県内の小学校に勤務し、理科の中の気象教材に関心を持ち、日本地学教育学会等において風や天気学習を深める指導法について発表してきた。また昭和46年には中学生を指導し「雲の研究」で第15回日本学生科学賞の科学技術庁長官賞を受賞するなどの実績を挙げた。

昭和52年、千葉県教育センターに転勤の後は、一層気象教育に力を注ぎ、同センター刊行の「理科教育研究」誌上に「千葉市における雪の降り方」「房総半島を北上した台風15号(昭57)」「児童の興味関心を高める気象の調査」「児童の興味関心を高める気象の教材化」などを精力的に発表すると同時に、日本地学教育学会においても気象教材や気象観測指導に関する研究発表を行ってきた。

特に昭和56年より5カ年計画で、気象観測データの教

材化と県内各小・中学校への教材資料の提供を目的に研究を開始した。また小学校教諭丹・長島両氏の協力を得て、児童の興味関心を高める身近な気象の教材化に取り組んだ。その一部を記すと

(1) 前線通過時の気象要素変化のプロセスを児童に理解しやすくする工夫

(2) 児童の雲のスケッチを、低・中・高学年別に整理分析し、発達過程に応じた気象学習を深めるための研究

(3) 児童が自作できる気象観測器具の開発

鈴木会員を中心としたこの研究は気象の教材教具の開発のみならず気象に対する児童の興味関心の高まりを育てる学習場面への取り組み、各学校への資料提供など多彩な実践研究である。今後の学校気象教育に多大の貢献となることを期待し、本学会はここに奨励金を贈るものである。

==== 支部だより ====

中部支部研究会の開催について

期 日 昭和58年11月25日 9時30分～17時

場 所 名古屋大学水圏科学研究所 大講義室(3F)

1. 岩井邦中(信州大学), 伊藤朋之(気象研), 小野 晃(名大水圏研): オーストラリア西部のインド洋におけるエアロソール粒子濃度について
2. 池辺幸正(名大工学部), 飯田孝夫(名大工学部), 下道国(名大工学部), 前田 淳(名大工学部), 服部隆利(名大工学部): 天然放射能を用いた大気中の粒子汚染測定
3. 近藤 豊(名大空電研), 高木増美(名大空電研), 岩田 晃(名大空電研), 森田恭弘(名大空電研): 対流圏・成層圏 NO_x の測定
4. 森田恭弘(名大空電研), 高木増美(名大空電研), 近藤 豊(名大空電研): 自由対流圏エアロゾルの空間分布の測定
5. 入田 央(津地台), 武井康郎(津地台): ガイダンスを総合的に用いたカテゴリー予報の可能性について
6. 土田信一(津地台): デジタルレーダーによる短時間予測のための基礎調査
7. 露木 義(名古屋地台): 愛知県における12時間降水量の分布を予測する試み
8. 中務信一(名古屋地台): 1982年8月8日の雷雨について
9. 岡本 晟(名古屋地台), 梅田英男(福井地台): 森林

(スギ)冠雪害の気象条件

10. 石坂 隆(名大水圏研), 横山辰夫(名大水圏研): 降水のタイプと雨滴の粒度分布
11. 赤枝健治(名大水圏研), 武田喬男(名大水圏研): NOAA-7号の多波長データを用いた広域の雲の解析
12. 岩井邦中(信州大学): 長野市における雨と雪(融雪水)の比電気伝導度について
13. 徳岡敦子(名大水圏研), 飯田 肇(名大水圏研), 樋口敬二(名大水圏研), 渡辺興亜(名大水圏研): 北陸における降雪・積雪の酸素同位体組成の観測
14. 天野 充(屋鷲測): 台8210および8218の東海沿岸潮位への影響
15. 下山紀夫(名古屋地台): 愛知県の気温特性
16. 池山雅美(名大水圏研), 武田喬男(名大水圏研): 西太平洋の30日雲量変動
17. 星合 誠(愛知学院大): 北半球平均気温と雪氷被覆面積の最近の変動
18. 仲野 貢(名大空電研), 高木伸之(名大空電研), 河崎善一郎(名大空電研), 竹内利雄(名大空電研): 上向きストリーマーで始まる落雷について
19. 田中 浩(名大水圏研): メソスケール山岳波の崩壊によって惹き起こされた成層圏下部の大気大循環